

第4回

子どもを亡くされた経験者の声から考える 周産期グリーフケア研修

宮崎県内で一年間に死産で亡くなる赤ちゃんは、200人ほど
死産後のお母さんや家族にどう声をかけていいかわからない・・・
そう悩む医療者が多い。だから、みんなで考えてみませんか？



～Voice of Women～ 8人の経験者からの話

「おめでとう」は言えなくても「生まれたよ」って言ってほしかった
娘が金属トレーにのせられているのをみてすごくつらくて悲しくて・・・
生きている赤ちゃんと同じように抱かせて欲しい、一緒にすごしたい
赤ちゃんが生まれてから私にできることを教えてほしい
病院間でケアの格差・・・みんなが同じでケアができるようになってほしい
ケアが受けられたことで、次妊娠しようかなって気持ちになります・・・
夫も同じ痛みを感じている・・・夫への支援もあったらいいな・・・

月 日：令和元年 12 月 15 日（日）

時 間：10 時 00 分～16 時 00 分

場 所：宮崎県立看護大学 多目的ホール

内 容：

10:00-12:00 「周産期グリーフケアの基本とケアを根付かせるチームづくり」

講師：大藏 珠己 氏

大阪市立総合医療センター 総合周産期母子医療センター助産師

13:00-16:00 ワークショップ

みんなの病院ではどんなグリーフケアをしているの？

周産期グリーフケアを病棟に根付かせるために何ができるの？

参加費：無料

申し込み先：宮崎県立看護大学 研修・研究センター（12月3日まで）

電話：0985-59-7833

FAX：0985-59-7878

メール：center@mpu.ac.jp



（講師大蔵珠己氏ご紹介）

大阪市立総合医療センターに開院準備期より勤務、以後 15 年間ハイリスク妊産褥婦のケアにかかわる。中でも、児が予後不良と出生前診断をされた母親へのケアに着目。ケアを模索しながら現在の死産ケアに至る。

2008 年大阪市立住吉市民病院へ転勤。着任後、死産ケアの改革を行うと共に、自身の これまでの死産ケアをまとめ、研修会・セミナーなどで発表。 2010 年日本助産学会学術集会にてポスターセッション優秀賞受賞。

2011 年より現職。第 52 回日本母性衛生学会総会・学術集会シンポジウム（2011 年）「周産期におけるグリーフケア」シンポジストを務めた。

現在は、臨床業務と共に教育機関での講義や研修会での講師を行っている。

第 4 回 周産期グリーフケア研修 参加申込書

◆ FAX または電話でお申し込みください。

研究・研修センター FAX 番号：0985-59-7878（かがみ不要。申込書のみ送付してください）

電話番号：0985-59-7833

申込日： 年 月 日

所属施設名		
申込み責任者：		TEL：
		FAX：
NO	氏 名	職 種
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		